

## 温対法に基づく事業者別排出係数の算出方法等に係る検討会（第16回）

### －議事要旨－

日 時：平成30年3月18日（月）10：00～11：40

場 所：経済産業省別館 1111会議室

出席者：

＜委員＞

山地座長、大橋委員、工藤委員、森口委員

＜オブザーバー＞

小川 喜弘 電気事業連合会 立地環境部長

竹廣 尚之 株式会社エネット 経営企画部長

議 題：

- ・現行の係数算出方法における課題と対応
- ・これまでの制度検討における経緯について
- ・その他

議事概要：

事務局から資料2について説明し、その後討議。委員等からの主なコメントは以下のとおり。

○委員・オブザーバー意見

→事務局回答

#### 1. 18年度の排出係数算定に係る論点（代替値の計算方法の変更・異常値への対応）

- 異常値への対応について、そもそもなぜ他の小売事業者に卸販売する場合、前年度係数を使用しているのか。実績値がないので前年度を使用するということであれば理解はできる。他社からの調達においても数学的には計算可能ではないか。
- 技術的にどのような課題があるかということと、方針に沿ってどう考えるかということは、分けて考えていかないといけない。そういう意味では、ご提示いただいた方針には賛成する。対外的な説明として、これまでの背景についても分かればよいか。異常値については、環境配慮契約法などとも関係してくる。裏を返すと異常値はテクニカルであるので、代替値を使うことで競争的なところの公平性が保たれるのか気になったところ。  
→ もともと代替値については、外部用電力と自家用電力にて算出しており、一般用電力、特定用電力は排出係数が算出されているので、代替値には含まれていなかった。現実に特定排出者が小売事業者から調達した場合には代替値を使うという事もある

り、国全体の係数を使おうという改正をしたいということ。

- 代替値について、特段異論はない。異常値については、どれほどのインパクトがあるのか。規模感はどれくらいか。
  - 異常値の報告を受けた事業者は極めて卸事業の割合が高い 90%以上の事業者。特定排出者に対して電気を卸しているケースではないと認識している。また異常値にて報告された事業者は 3, 4 社という認識。
- 異常値について、これまで卸供給を想定していなかったと思う。また使用するデータを一致させることの重要性や一元的に当該データを集めることは重要となる。算定方法についても技術的には可能ではないかと思うため、暫定的にはこうするしかないと思うが、議論できればと思う。
- 今この場で技術的な議論をすることは難しいと思うが、今年度の排出係数を算定する上では、今回事務局より提案のあった代替値・異常値への対応についてはこの形で進めさせていただきたい。

## 2. 19 年度以降の排出係数算定に係る論点（非 FIT 非化石証書の取引開始に伴う CO2 排出係数の整理について）

- FIT の時にも議論があったが、環境価値をどこに紐づけるかという問題がある。FIT の場合は賦課金の費用負担のこともあったので全電源排出係数とすることは腑に落ちたが、非 FIT の場合はどのような電源を代替しているかを考えることが必要である。
- 2019 年度は今回ご提示いただいた対応になるかと思うが、この排出係数の算定方法は海外と異なる。非化石電源が何を代替しているかを検討することは賛成。間接オーケションは基本的な考え方は良いので、技術的に対応することには異論はない。
- 間接オーケションについて、特定契約に基づいた送電量・受電量などを確認するのは誰になるのか。
  - 国が委託する事業者が確認することとなる。
- 非化石証書なので代替するのは化石電源という事は明確ではないか。であれば、非化石電源も含めた全電源平均排出係数は論理的にはおかしいと思う。化石を使った電源のみの平均排出係数とした方がロジカルではないか。
  - 原単位については重要なのは FIT、非 FIT で価値が違うという事はないのではないか

かと思っている。卒 FIT の価値と FIT が違うのは不都合が多いと思う。

FIT 証書は全国平均として、化石平均となると制度変更となるので、議論する必要があり、来年度から実際に取引が始まるため 2019 年度は全電源平均でいいのではと考えている。

- FIT と非 FIT の整合性についてよくわかるが、一方で両者は違うものなので同じ係数とする必要はなく、考え方が整合していればいいのではないか。非 FIT については、FIT 分の非化石証書の整理の後、後追い的に整理することになっているので、状況が変わったことによって当初の整理を見直すのは問題ないように思う。
- 海外では、残余ミックスを算出してダブルカウントを防止する等、違う方法論で議論されている。今回、非 FIT 非化石証書が全電源平均なのか火力平均なのか問題意識を共有できたのは良かった。
- 2019 年度については全国平均排出係数とすることについては賛同する。  
今後の非 FIT 非化石証書の制度設計にもよるが、足元も含めて、係数への影響もあるため、効果・インパクト等も考慮して慎重な議論をいただきたい。
- 証書の排出係数について、化石電源を代替するものとして良いと思うが、これからの議論だと思う。  
事業者目線の要望としては、間接オーケションについて、別 ID を取得し特定契約等が確認できれば、排出係数は送電元となることについて、あっていいものだと思うが、需要家に CO2 フリーの電気を届けるのは、RE100 や SDGs といったものへの対応も含まれる。  
現在トラッキング実証をやっている非化石証書は RE100 等に認められているので、実証での仕組みを是非制度化してほしい。
- FIT と非 FIT の両方とも化石電源係数にするのもありではないか。
- 今回事務局の提案に異論はないが、非常に制度が複雑化している。非化石証書のオンセット・オフセットの関係は経緯をトレースいただきたい。様々な事業者がいるので、ダブルカウントやリーケージが起こらないように算定方法をシンプル化、公正化をお願いしたい。

### 3. これまでの制度検討に係る経緯について

- これまでの経緯をかなり復習することが出来た。実際にメニュー別排出係数はどれくらい出てきているのか。また卒FITはメニュー別に含めることは可能か。  
→ 卒FITはメニュー別にも含めることが出来る。
- メニュー別係数については、環境配慮契約法に係る検討会でも議論がされている。現状、メニュー別排出係数で評価するとでは係数が残差に寄ってしまう等の理由もあり事業者別排出係数しか使用することはできないこととなっている。

### 4. パブリックコメントについて

- 今回議論した代替値の算出方法の変更と異常値への対応について特段意見は無かったため、事務局案にてパブリックコメントをかける。

以上

(文責：事務局)